

チベット文化圏における言語基層の解明

チベット・ビルマ系未記述言語の調査とシャンシュン語の解読

長野 泰彦 (国立民族学博物館 研究戦略センター 教授)

【概要】

チベット・ビルマ語族は、中国・青海省からパキスタン東北部にわたる広い地域に分布する言語群であるが、その歴史については系統関係の大枠が示された段階であり、未だ解読されていない文献言語や記述のなされていない言語が多数残っている。チベット語圏ひとつを取ってみても、そこは決して初期段階からチベット語によって覆われていたのではなく、多様な基層言語が後にチベット文語の基礎となる言語と接触する過程があったはずである。本研究はこの言語動態を河西九曲の地・チベット西部・及びヒマラヤ地域での未記述言語のフィールドワークによつて的確に把握し、その脈絡において未解読言語、シャンシュン語の再構成を行うことを目的とする。

このような言語基層の調査研究は、言語の歴史研究の方法論一般にとって先駆的な試みである。言語の歴史研究は専ら「比較方法」によつていたが、民族の移動と接触が頻繁に起こったチベット・ビルマ系諸語のような言語群においてその方法は必ずしも有効でない。そのような言語の歴史を再構成するには、形態統辞論を主軸とする動態の比較を、文献学とフィールドワークの両面から精緻に行う必要がある。本研究はそのような新しい方法の開拓をも目指している。

【期待される成果】

従前全く読むことのできなかつたシャンシュン語文を初めて体系的に解読でき、知られていなかつたチベット文化域の歴史と文化を明るみに出すことができる。また、チベット・ビルマ系未記述言語の調査研究により、基層言語の記述的データを集積できる。また、国際的な文法データベースとの連携を強化でき、研究資源共有を軸とする国際研究ネットワークを構築することが可能となる。さらに、歴史言語学の新しい方法を開拓するための基礎を提供できる。

【関連の深い論文・著書】

- 2001 *New Research on Zhangzhung and Related Himalayan Languages.* 国立民族学博物館調査報告 15号.
- 2002 *The Call of the Blue Cuckoo.* 国立民族学博物館調査報告 32号.
- 2003 *A Catalogue of the Bonpo Kanjur.* 国立民族学博物館調査報告 40号.

【研究期間】 平成 16 ~ 20 年度

【研究経費】 69,100 千円

【ホームページ】 なし

